

国際地域文化 調査成果発表会

PROGRAM

開会のあいさつ	13:00
<i>The Japan Times</i> のこれまでと新聞のこれから	13:05
大熊段1号墳の調査 —2023年度第3次調査による墳丘形態と出土円筒埴輪の検討—	13:45
————— 休 憩 —————	
分かりやすい案内表示・案内図と公共表示における多言語表記	14:40
日本統治期の台湾と日本仏教	15:20

2024年1月20日(土)

開場 12:30 開会 13:00

鳥取大学 地域学部棟5階 5160講義室

入場無料・来聴歓迎



1

13:05~

The Japan Timesのこれまでと新聞のこれから

グローバル班では、昨年度から1897年に複数の鳥取県出身者によって創刊された英字新聞*The Japan Times*について調査しています。今年度は、特に創刊メンバーの一人である武信由太郎について焦点をあてました。また、資料調査や施設訪問、関係者への聞き取りや日本の他の新聞との比較分析などを通して、*The Japan Times*という新聞の歴史と現在、これからの新聞メディアの在り方について検討しています。それらの調査結果を報告します。



鳥取市あおや郷土館での資料調査

2

13:45~

大熊段1号墳の調査—2023年度第3次調査による墳丘形態と出土円筒埴輪の検討—

鳥取大学に隣接する大熊段1号墳は、現存全長45mの前方後円墳です。6世紀後半に築造されたと考えられており、その時期の前方後円墳としては、鳥取平野で最大となる可能性があります。しかし、正確な築造時期や古墳の形、規模など基礎的な情報が不足しているため、それらを明らかにする調査が必要です。コロナ禍での中断を経つつも、2019年度から継続的に発掘調査を行ってきました。3年目の成果を報告します。



大熊段1号墳の発掘調査

3

14:40~

分かりやすい案内表示・案内図と公共表示における多言語表記

看板・掲示板・ポスターなどに書かれている文字言語のことを「言語景観」と呼びますが、今年度は、鳥取大学構内や鳥取市内公共施設における言語景観を対象に、文字・表記・表現のバリエーションの把握、および表現意図の解明を目的に活動しています。発表では、鳥取大学各学部に掲示されている学部棟マップ、および鳥取大学構内の看板や鳥取駅における公共表示の多言語表記に関する調査結果について報告したいと考えています。



鳥取大学構内でのフィールドワーク

4

15:20~

日本統治期の台湾と日本仏教

私たち東アジアを対象としたグループでは、今年度、文献調査と現地調査（京都・台湾）を通じて、日本統治期における仏教教団の布教活動の特徴を検討してきました。現地調査では、仏教や海外布教に関わる専門家の講演を聞いたり、実際の建築物や資料なども閲覧しました。発表では、近代における仏教教団の動きや、海外布教を展開した曹洞宗・臨済宗・浄土真宗などの特徴を中心に報告いたします。



台湾高雄の靈泉禅寺の調査